

平成 28 年度 第 4 回 研究・経営評議会 議事要旨

1. 日 時：平成 29 年 3 月 30 日（木） 15:00～17:00
2. 場 所：国立研究開発法人日本医療研究開発機構 205 会議室
3. 出席者：
（委員）喜連川委員、竹中委員、永井議長、堀田委員、山本委員

（事務局）末松理事長、大谷理事、菱山執行役、樽林執行役、泉研究総括役、松尾経営企画部長、天野知的財産部長、森田産学連携部長、野田国際事業部長、加藤バイオバンク事業部長、吉田臨床研究・治験基盤事業部長、久保出資金事業準備室長、大場経営企画部次長、神谷戦略推進部次長、針田戦略推進部次長

4. 議事

1. 日本医療研究開発機構の取組と課題について
2. 医療研究開発革新基盤創成事業について
3. 平成 29 年度予算等について
4. その他

5. 議事の概要

議長より開会する旨の発言があり、出席者の報告の後、議事に入った。

議事 1 について、事務局より、前回の研究・経営評議会後の取組、今後の課題等について説明を行った。

委員からは、以下のようなコメントがあった。

- AMS（AMED 研究開発マネジメントシステム）のデータは、革新的・萌芽的な研究に一定の予算を付けていく説明にもなるのではないか。
- 研究が当初の計画どおりに進まず、成果を出せないケースもあるが、一段ステージを下げてタグ情報を付け直して、マネジメントしていくような進め方もあるのではないか。
- 研究が途中でスタックしたときは、共通の問題があることもあり、その分析に AMED の支援課題のデータを利用できればよいと考える。

- 研究機関が非臨床試験でデータや実験の信頼性を確保する体制をつくっていくことが必要ではないか。
- 第2期の医療分野研究開発推進計画等の検討に向けては、AMED のデータや外国の状況を見ていくことや、何を指標として研究支援を行うかのポリシーを立てることが必要ではないか。
- 世界に先駆けた評価指標をつくっていくことはなかなか難しいので、現状に至るまでのデータ集めが重要ではないかと思う。
- ファンディングの予算は限られており、研究が経済効果としてどうプラスに振れるかというところまで考えていく必要があるのではないか。
- AMED のデータをどう使っていくかの議論はなかなか難しいので、早目に検討いただければと思う。

議事2について、事務局より、医療研究開発革新基盤創成事業について説明を行った。

委員からは、以下のようなコメントがあった。

- 企業が参画する必要があるのは、アカデミアが単独で15年で返済することはおそらく難しいので、そのためということか。

議題3について、事務局より、医療分野の研究開発予算の平成29年度予算のポイント、個人情報保護法等の改正に伴う研究倫理指針の見直し、AMED シンポジウムについて説明を行った。

委員からは、以下のようなコメントがあった。

- 研究倫理指針については、そろそろ個別の倫理指針でやっていくことは難しくなっているのではないか。

以上をもって議事は終了し、議長より閉会する旨の発言があった。